

調査委員会における調査研究報告書

教科名（国語）

No. 1

調査研究の観点	所 見		
	発行者（東京書籍） 発行者番号（ 2 ）	発行者（三省堂） 発行者番号（ 15 ）	発行者（教育出版） 発行者番号（ 17 ）
1 内 容	①「話す・聞く」の内容が多岐にわたっており、発達段階も考慮されている。テーマ例も挙げられている。 ②第1学年でレポート・意見文・随筆、第2学年で手紙・意見文・紹介文・創作文、第3学年で新聞記事・批評文を書くことになっており、扱いが幅広い。発達段階を考えるとやや難しい。 ③読み物教材は、文学的文章、説明的文章とも内容は概ね適当である。 ④学習の手引きは段階的に学習できるようになっている。 ⑤「文法の窓」は、内容ごとでまとまっている。巻末資料でも取り組めるようになっており、色と文法項目を対応させて表記している。	①「話す・聞く」の内容が比較的多岐にわたっており、テーマ例も挙げられている。 ②第1学年でレポート・意見文・リーフレット、第2学年で手紙・創作文・論説文・投稿文、第3学年で小論文・批評文を書くことになっており、発達段階を考えるとやや難しい。 ③読み物教材は、文学的文章、説明的文章ともに内容は概ね適当である。「読み方を学ぼう」は生徒の主体的な学びにつなげられる。 ④学習の手引きは、主体的な学習に取り組める課題になっている。 ⑤「文法のまど」は系統立てた内容になっている。巻末資料でも取り組めるようになっており、活用表の備考欄に詳細な説明がある。	①「話す・聞く」の内容が、スピーチ、グループセッション重視で取り扱われている。 ②第1学年で紹介文・案内文・随筆・意見文、第2学年で手紙・投書・意見文、第3学年で批評文・自己PRを書くことになっており、発達段階を考えるとやや難しい。 ③読み物教材は、文学的文章、説明的文章とも内容は概ね適当である。 ④学習の手引きは段階的に学習できるようになっている。「ここが大事」というまとめがある。 ⑤「文法の小窓」が設けられている。巻末資料でも取り組めるようになっている。
2 構成・分量	①本編(8つの単元)、文法解説と漢字道場、本編に関連する資料編の3部構成になっている。 ②第2学年・第3学年は、第1単元が随筆(第1学年は詩)である。分量も適切で、作品もこれからの学び方のヒントを与えるような内容のもので構成されている。 ③古典作品は、2年次に古文が随筆2作品、軍記物語1作品、漢文は漢詩5編で構成されている。古典作品の総量は適量である。 ④各作品後により深く読み進めることをサポートする内容のページが設けられている。	①本編(9つの単元)、文法のまとめ、本編に関連する資料編の3部構成になっている。 ②第1学年～第3学年まで、第1単元が詩である。年度初めに取り組むには適切な分量の教材である。作品も生徒を励ますような内容のもので構成されている。 ③古典作品は、2年次に古文が随筆2作品、軍記物語1作品、漢文は漢詩4編で構成されている。古典作品の総量は適量である。 ④各作品後により深く読み進めることをサポートする内容のページが設けられている。	①本編(7つの単元)と巻末(言葉と文法の資料)の2部構成になっている。 ②第2学年・第3学年は、第1単元が詩(第1学年は随筆)である。分量も適切で、生徒を励ますような内容のもので構成されている。 ③古典作品は、2年次に古文が随筆2作品、軍記物語1作品、漢文は論語が扱われている。(漢詩は3年次) 古典作品の総量は適量である。 ④各作品後により深く読み進めることをサポートする内容のページが設けられている。
3 表記・表現	①「てびき」や「学習のページ」に同年代のキャラクターが登場することで親しみやすく取り組める。 ②古典分野は作品により適宜、原文と現代語訳が上下で配置されている。現代語訳はすべてカラー表示を取り入れている。 ③古典分野の現代仮名遣いが左側、ふりがなが右側で重複表示が避けている。	①「学びの道しるべ」や「学習のページ」に登場するキャラクターが多岐にわたり取り上げられている。文中の挿絵は色彩が濃い目である。 ②古典分野は作品により適宜、原文と現代語訳が上下で配置されている。現代語訳はすべてカラー表示を取り入れている。 ③古典分野の現代仮名遣いが左側、ふりがなが右側で重複表示が避けている。	①「学びナビ」で学習事項を確認できる。色彩が淡くイラストや図は控えめである。 ②古典分野は作品により適宜、原文と現代語訳が上下で配置されている。現代語訳はすべてカラー表示を取り入れている。 ③古典分野は現代仮名遣いとふりがなが右側だが、() 付けすることで、区別しやすくしている。
4 使用上の便宜	①巻頭の「教科書の使い方」で既習事項の確認と学習に見通しをもつことができる。 ②「資料編」の容量が多く、特に読み物教材が充実している。 ③新出漢字一覧は筆順や用例もある。 ④二次元コードの内容が表記されており、事前に内容の確認ができる。	①巻頭の「領域別教材一覧」の「つけたい力」が◎・○で表記され、明確になっている。 ②「資料編」は文章と漫画を取り入れた新しい取組がある。 ③新出漢字一覧は筆順がある。 ④二次元コードの「参考資料」にNHK for school「10min. ボックス」が掲載されている。	①巻頭の「言葉の地図」がアイコン表記されており、視覚的に学びの中心が理解できる。SDGsの表記もある。 ②「学びのチャレンジ」に資料を活用した作文を書く新しい取組がある。 ③新出漢字一覧は筆順がある。 ④二次元コードの数は多いが、内容が記載されていない。

調査委員会における調査研究報告書

教科名（国語）

No.2

調査研究の観点	所見		
	発行者（光村図書出版） 発行者番号（38）	発行者（ ） 発行者番号（ ）	発行者（ ） 発行者番号（ ）
1 内 容	①「話す・聞く」の内容は、スピーチやプレゼンテーション、グループセッションが重視されており、テーマ例も挙げられている。 ②第1学年で説明文・レポート、第2学年で手紙・意見文、第3学年で批評文を書くことになっており、発達段階が考慮されている。 ③読み物教材は、文学的文章、説明的文章とも内容は概ね適当である。 ④学習の手引きは、ポイントを示した「学習の窓」と併せて、主体的な学習に取り組める課題になっている。 ⑤「文法への扉」は簡潔に説明されている。また、発達段階に応じた「語彙ブック」も付属しており、文法項目と日常的に使う表現を関連付けながら学習することができる。		
2 構成・分量	①本編(8つの単元)、学びを深める(文法と語彙編)、本編に関連する資料編の3部構成になっている。巻頭目次後に、領域別の教材一覧表が折りたたみで付いており1年間の学習の見通しを一目で確認できる。 ②第2学年・第3学年は、第1単元が小説(第1学年は物語)である。質・量共に適切な内容のもので構成されている。 ③古典作品は、2年次に古文が随筆2作品、軍記物語1作品、漢文は漢詩4編で構成されている。古典作品の総量は適量である。 ④各作品後に関連する知識が日常にどう活かされるかを示す内容のページが設けられている。		
3 表記・表現	①「学びへの扉」で学習事項が上下に系統立てて表記されており、「学びのカギ」と合わせて確認すべき内容が明確である。 ②古典分野は作品により適宜、原文と現代語訳が上下で配置されている。現代語訳は適宜、カラー表示を取り入れている。鑑賞が難しい短歌の現代語訳も表記してある。 ③古典分野は現代仮名遣いとふりがなが右側だが、（ ）付けすることで、区別しやすくしている。		
4 使用上の便宜	①巻頭の「学習の見通しをもとう」には、作品とSDGsの関連付けが分かる記載がある。 ②「資料編」の「学びのカギ」一覧で振り返りとまとめができる。第3学年の「つながる古典」では、イラストや関連図により古典の学びを振り返りやすい。 ③新出漢字一覧は筆順や用例もある。 ④二次元コードの内容が表記されており、事前に内容の確認ができる。		